



Harashin Narus  
Holdings

---

# 原信ナルス ホールディングス

## 第60期 事業報告書

2010年4月1日から2011年3月31日まで

---



## 当期の概況

当期におけるわが国経済は、年央から輸出産業を中心として徐々に好転しつつありましたが、本年3月に発生いたしました東日本大震災の影響は今後のわが国経済へ広範かつ長期的影響を及ぼすものと考えております。

スーパーマーケット業界においては、春の長雨や低温、夏の異常な猛暑、冬の豪雪と年間を通じて例年にはない気象条件に翻弄され、加えて鳥インフルエンザや口蹄疫問題などもあり、商品の価格、数量ともいちじるしく変動しました。また、当社グループが店舗展開している地域に競合他社6店舗の出店があり、競合状況も大きく変化しました。

このような状況において、当社グループは、お客様にご支持をいただける強固で優良なリージョナル・チェーンを形成するため、前期に更新を行った長期経営計画「Advanced Regional Chain」及びこれに基づく中期経営計画の取り組みを継続しながら変化する環境に対応してまいりました。

特に、前期より強化しております週間単位での販売管理の

取り組みや、「ニューコンセプト・パートⅡ」に基づく商品政策の深耕と店舗改装を含めた既存フォーマットへの展開は、着実に成果を上げております。

その結果、当期の連結業績は、売上高が1,233億60百万円（前期比4.5%増）、営業利益が38億24百万円（前期比16.0%増）、経常利益が38億7百万円（前期比20.2%増）、当期純利益が13億47百万円（前期比5.5%減）となり、一株当たり当期純利益は前期に比べ4円2銭減少して75円17銭となりました。

当期純利益の減少は、当期より「資産除去債務に関する会計基準等」を適用したことに伴い、当該会計基準適用初年度の移行時差異13億61百万円を、特別損失に計上したことによるものです。

資本政策につきましては、株主様への還元の一環として50万株、6億円を上限に自己株式の取得を行い、401,300株を取得しております。

当期の出店につきましては、ナルス上越インター店（9月・

### 主要財務指標（連結）

|          |       | 2007.3  | 2008.3  | 2009.3  | 2010.3  | 2011.3  | 2012.3(予想) |
|----------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|------------|
| 売上高      | (百万円) | 104,325 | 111,537 | 116,219 | 118,070 | 123,360 | 124,500    |
| 売上総利益    | (百万円) | 29,305  | 30,625  | 31,518  | 31,590  | 33,229  |            |
| 営業利益     | (百万円) | 3,794   | 3,629   | 3,220   | 3,295   | 3,824   | 3,900      |
| 経常利益     | (百万円) | 3,747   | 3,726   | 3,054   | 3,166   | 3,807   | 3,900      |
| 当期純利益    | (百万円) | 1,218   | 1,535   | 1,064   | 1,425   | 1,347   | 1,800      |
| 純資産      | (百万円) | 20,190  | 21,242  | 21,744  | 22,866  | 22,937  |            |
| 総資産      | (百万円) | 47,627  | 48,664  | 52,051  | 51,138  | 54,125  |            |
| 1株当たり配当額 | (円)   | 23.00   | 26.00   | 22.00   | 24.00   | 22.00   | 30.0       |
| 売上高経常利益率 | (%)   | 3.6     | 3.3     | 2.6     | 2.7     | 3.1     |            |
| 総資本経常利益率 | (%)   | 9.2     | 7.7     | 6.1     | 6.1     | 7.2     |            |
| 期末店舗数    | (店)   | 62      | 63      | 63      | 65      | 66      |            |
| 期末従業員数   | (人)   | 1,107   | 1,172   | 1,274   | 1,285   | 1,412   |            |

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。 2. 店舗数は、各期末のスーパーマーケットの店舗数です。  
3. 従業員数は各期末の従業員数で、パートタイマーを含みません。 4. 1株当たり配当額には、1株当たり中間配当額を含みます。

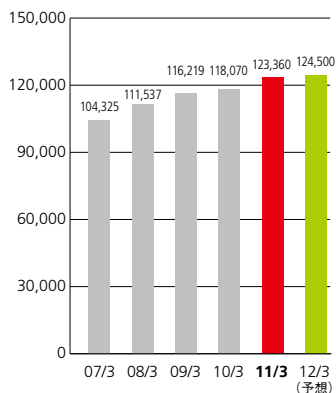
新潟県上越市・売場面積2,111㎡)と原信村上インター店(10月・新潟県村上市・売場面積2,098㎡)を新規出店いたしました。退店につきましては、ナルス戸野目店(8月・新潟県上越市・売場面積1,574㎡)を退店いたしました。

東日本大震災につきましては、当社グループの従業員、設備等に被災はありませんでしたが、多くのお取引先様や関係先様には、震災の爪痕が大きく残り様々な影響が生じました。当社グループでは、2004年の新潟県中越地震、2007年の新潟県中越沖地震の被災経験を生かして、震災発生直後から災害対策本部を設置し、速やかに状況把握に努めるとともに、被災地支援の対応を図り、おにぎりや水などの物資の供給、店頭での募金を開始し、53百万円を義援金として拠出しました。また、本年4月より「まごころ一元プログラム」を開始し、当社グループ店舗で販売するプライベートブランド商品一個につき、一元を義援金としてお届けする取り組みを始めております。

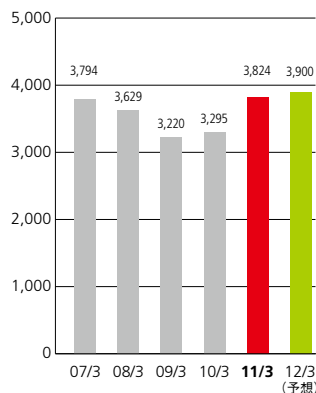


代表取締役社長  
原 和彦

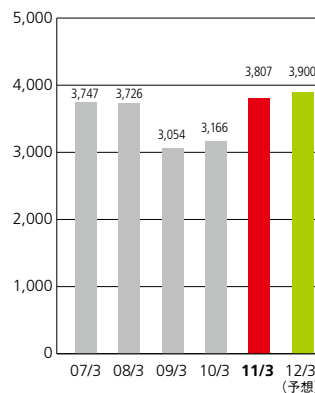
## 売上高



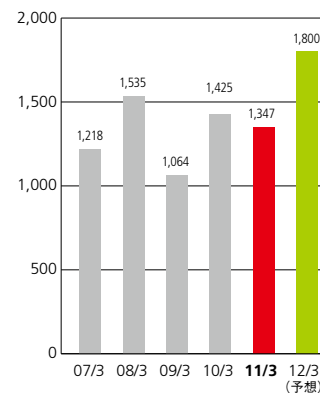
## 営業利益



## 経常利益



## 当期純利益



(単位:百万円)



“スーパーマーケットとしての  
社会的使命を自覚し、  
社員一人ひとりが自分の役割を  
果たしていくことが大切です”

# Mission

**Question 1** 3月11日に発生した東日本大震災では、原信ナルスによる被災地への迅速な支援が話題になりましたが、その背景について教えてください。

被災された方々や関係者の皆様には心からお見舞い申し上げます。原信ナルスグループとして被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

規模こそ違いますが、私たちも2004年の中越地震、2007年の中

越沖地震と、相次ぐ二度の地震により甚大な被害に遭い、被災者として心身ともに痛手を受けたつらい体験があります。中越地震では、当時、原信44店舗のうち22店舗が被災し、3店舗が復旧ならず店舗閉鎖に追い込まれました。今回の災害については、私たちが被災したときにいただいた温かいご支援や励ましに対するご恩をお返りする時であり、すぐに対応しなければならないと思いました。

今回の大震災発生直後に私は「被災地支援を最優先に取り組む」という方針を出しました。災害時は初動が重要です。スピード感を持って取り組まねばなりません。数度の災害経験から、災害



対策本部が即刻立ち上がり、機能しましたが、指示を出されなくても自分が何をすべきかを心得ている人材が当社には多くいます。食品製造子会社であるローリーでは、被害状況が未だよくわからない直後からおにぎりを被災地に送るべく準備に取り掛かり、翌日には福島県へお届けしました。商品本部ではパニック的な品薄状態に陥る中で、入荷が困難になっている商品の集荷に全力を尽くすとともに、店舗では一人でも多くのお客様からご利用いただけるよう補充に努めました。また、レジでは、不足する商品の問い合わせに何度も丁寧に対応しました。物流では、混乱する物流網の正常化と並行して被災地への物資供給を行いました。社員が何をすべきかを心得えた上で、迅速かつ適切な行動がとれたことを誇りに思います。

現在までに被災地への物資供給は20回行っています。義援金や物資供給のほか、新潟県内へ避難されてこられた方々に対する積極的支援を行いました。また、一部地域でボランティアセンターと連携し、支援物資を広く一般の方々から店頭で集めてお届けするなど、できることはすべてしようということで取り組んできました。私たち小売業は地域の生活を支えるインフラのひとつであり、その責任をあらためて感じています。

節電については、3月14日時点で店舗内外の一部照明の消灯や店内空調の停止を全店舗で行うなど業界に先駆けて開始しています。電力不足が予想される今年の夏に向けて、新潟県が停電を回避するために呼びかけている「ピークカット15%大作戦」に積極的に協力していきます。

スーパーマーケットとしての社会的使命を自覚し、社員の一人ひとりが自分の役割を果たしていくことが大切だと思います。

(4月13日取材)



当期の業績について教えてください。

売上高・経常利益とも過去最高となりました。純利益ベースではやや減益となっていますが、これは借地の上に建てている店舗の撤去にかかる費用を予測し、賃借期間に配分して処理するように会計基準が変更になったため、変更年度である当期に、過年度分の13億円余を一括処理したためです。いわば将来発生する費用を前倒して処理していることになり、より適切な経営判断ができるようになると考えています。

この1年を振り返ってみますと、春には天候不順による野菜・果物の相場高、夏は猛暑による飲料などの需要増、秋には猛暑の影響による野菜・果物の相場高、冬の大雪も結果としてまとめ買いや鍋物商材等の販売増加といった外的要因による売上の押し上げ効果があり、実力以上の結果が出ていると思います。とは言え、この1年間取り組んできた「Advanced Regional Chain」を目指しての体質改善については、かなり進んだと思っています。

具体的に申し上げますと、第一にウィークリーマネジメントの徹底です。2009年11月に発表した長期経営ビジョン「Advanced Regional Chain」では、「日本一のサービス、標準店200店舗、信頼の構築」を目指して、現在の組織体制や仕組みを根本から見直すこととし、「ローカルチェーンの思考」から早く脱却しようということを言っています。本部からお店が近くても遠くても、同一品質、同一のサービスを提供できるような体質、基盤作りをしようと思ってきました。

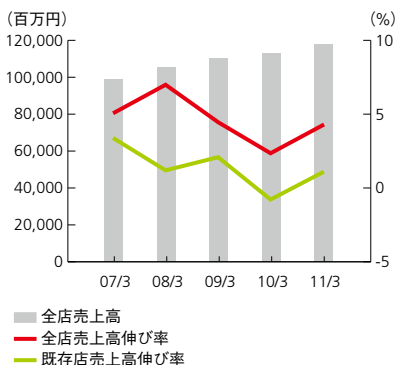
そのためにはマネジメントのスタイルを変えることがどうしても必要で、これを実現する手段としてウィークリーマネジメントの徹底を行いました。お話しすれば全く当然のことなのですが、これは売上高と粗利益高、労働時間などを週間単位で管理して、PDCAの管理サイクルを回し、逐次計画に修正を加えていくことを制度化したものです。結果としてかなり数字が安定してきました。

次に「サービスレベル、サービスマインドの向上」ということで「フラワースマイル賞」という社内表彰制度を作っています。マニュアルを超えた「おもてなしの心」をもってお客様を迎えようというのがテーマです。例えば、「駐車場で自動車のバッテリーが上がって困っていたら、従業員が車を持ってきて、充電してくれた。おかげで帰宅できた。」とか「商品のグラスを割ってしまい『どうしよう』とまごついていたら、すばやく2人の従業員が駆けつけて来てくれ『お怪我はありませんか』と心配してくれ、片付

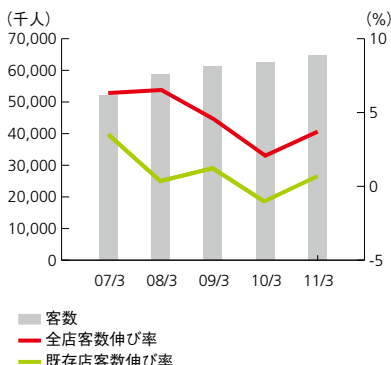
けてくれた。ありがたかった。」などの、お客様からご意見カードやお電話、メールなどでお知らせいただいた具体的な事例を積極的に取り上げて、本人を表彰しています。また、社内報には、フラワースマイル賞を受賞した方の顔写真と一緒にお客様からの感謝の声を掲載する欄を設け、全社員がさらにお客様へのサービスの気持ちを持って毎日の仕事にあたってもらえるような空気を醸成しようと努めています。

一方で、様々な取り組みの徹底をはかるために、社内コミュニケーションのあり方を変えていく必要があると思っています。店長には週単位や日時単位で行うミーティングの体系を再確認させ、特に毎朝の全体朝礼に続く「部門朝礼」で方針を段取りに落とし込むことを徹底してもらっています。従来は毎月の給与明細をお渡しする際に、部門別のチーフからパートナーさんたちにお渡ししていたものを、ある店長が「ひとことミーティング」と称して、パー

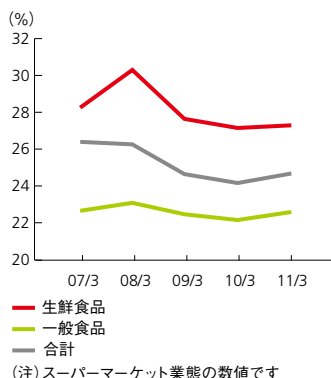
店舗売上高の推移



客数の推移



主要商品別店舗粗利益率





“マニュアルを超えた  
「おもてなしの心」をもって  
お客様をお迎えします”

トナーさんたち一人ひとりに言葉をかけながら直接渡すことにより、パートナーさんとのコミュニケーションが格段にようになったという事例がありました。これは非常に素晴らしいことなので最低月1回は店長とパートナーさんの一対一のコミュニケーションの機会を作ろうという目的で全社の標準にしました。これでパートナーさんにとって店長の存在がとグッと近くなったという声も聞こえてきました。お客様がこんなことをおっしゃっていましたという話もパートナーさんから直接、店長の耳に入るようになってきました。

店長が一人ひとりを見ているとなれば、パートナーさんたちも仕事に対する思い入れが違ってきます。ずっと主体的に取り組むようになってくるのです。

店長の「来週はこういう売場にしよう」というイメージが伝わるようになります。店舗あるいは部門全体が取り組む全体像をメンバー全員で把握することが大切だと思います。これらは数値化できるものではありませんが、「日本一のサービス」を目指すわれわれにとっては不可欠なものと考えています。





### Question 3 > 新しいマーチャンドライジング “ニューコンセプト・パートⅡ”の進展 についてはいかがでしょうか。

“ニューコンセプト・パートⅡ”は一昨年の秋から検討をはじめ、昨年3月に開店した新潟県長岡市の原信美沢店が実験導入店舗になりました。この3月で一一年を経過したところですが順調に推移しています。原信美沢店は同じ原信が2km圏内に3店舗、3km圏内に8店舗あるという特殊なロケーションで出店した店舗です。自社競合のリスクを負いながらも、我々が出店しなければ競合他社が入っ

てくる可能性の高かった場所でした。このため、単純に今までの標準的なスタイルで出店するのではなく、商品政策、売場作りともこれまでとは異なる新しいコンセプトを試す実験の場として臨みました。

10年前から取り組みを始めた従来の“ニューコンセプト”は、「簡単・便利」をキーワードに、お客様の食事の便利さを追求し、下ごしらえ済みの商品やお惣菜、サラダ、カットフルーツなどの調理済み商品を充実させるもので、働く主婦の方からお年を召したお客様、単身でお住まいの方まで、幅広く食卓をサポートする取り組みでした。

しかし、新ビジョンを発表した際、やはり時代の変化を敏感に取り入れて、新しい売り方にも挑戦すべきだと考えました。これまで



の取り組みを進化させるべく「洗練されたムダのない売場」というキーワードを追加し今までの当社店舗ではご満足いただけなかった部分にチャレンジしてみようと考えました。

“ニューコンセプト・パートⅡ”の取り組みについては、原信美沢店を皮切りに、6月に原信岩上店を改装し、9月にナルス上越インター店、10月に原信村上インター店の開店にあたっても導入しました。この過程で、必要な修正を加えると同時に、既存店にもその考え方を展開していきました。

店内の照明の変更や内装をシックな色合いにコーディネートすることなどは新店や改装でなければ実現できませんが、品揃えについては、輸入チーズやオリーブオイル、ミートデリカの充実、カラーコーディネート考えた陳列などを既存店に導入しています。

また、“ニューコンセプト・パートⅡ”の一環として「パワーアイテム」と呼ぶ商品の導入を始めました。これは、グループ内に食品製造子会社を持つ強みを活用し、20円のミルクパン、98円のサンドイッチ、68円のおにぎりなど、品質・味を落とさず、他社が追従できない低価格で毎日販売でき、しかも適正な利益が確保できる新商品のカテゴリーです。これまでのプライベートブランドに加え、一品、一品大切に育てていこうと思っています。

今後も原信ナルスは地域社会の一員として、スーパーマーケットの社会的使命を自覚し、リージョナル・チェーンとして、皆様にご満足いただけるお店を目指して日々努力してまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

“社内コミュニケーションを徹底し、  
メンバー全員でビジョンを共有します”

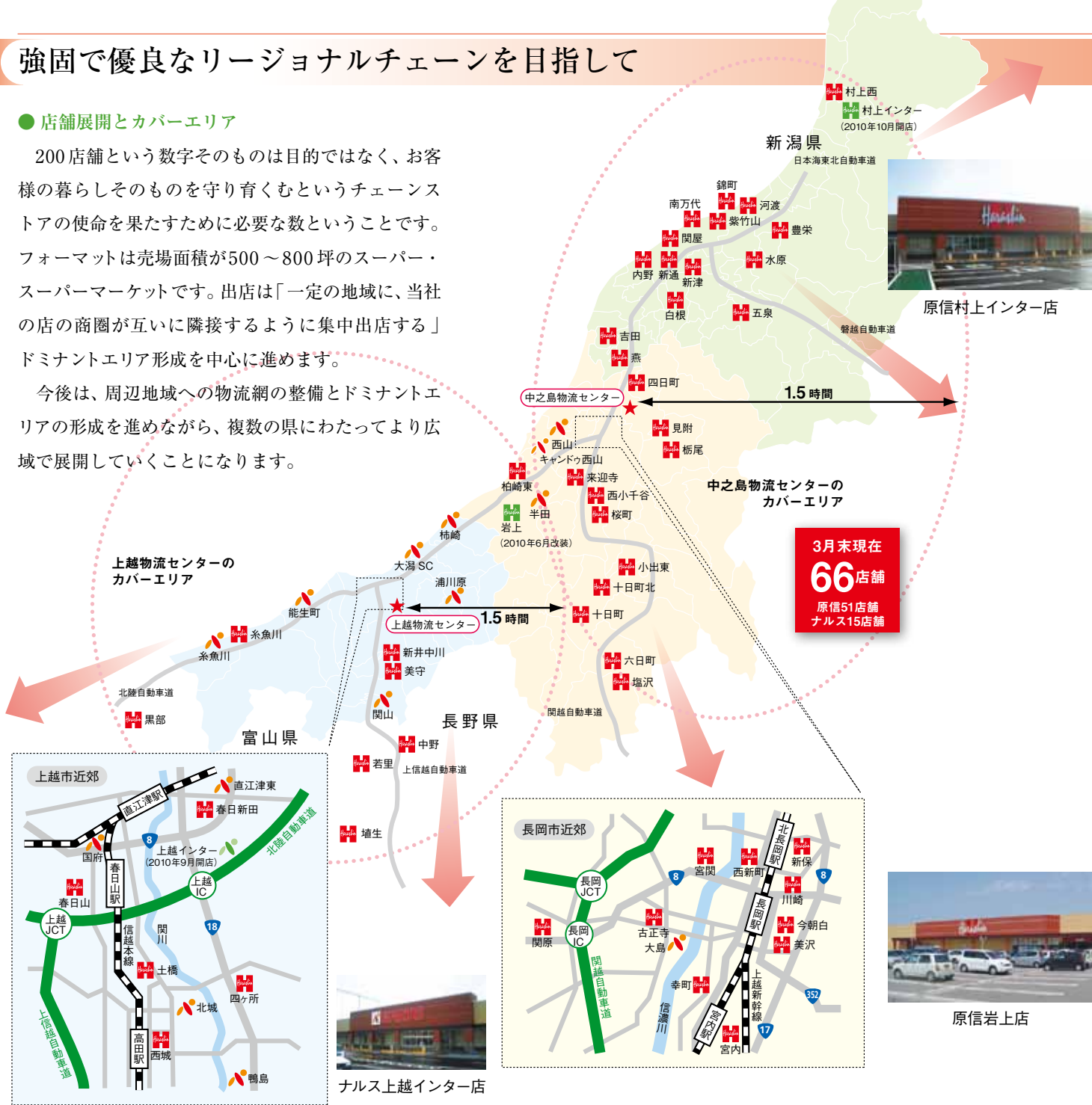
Communication

# 強固で優良なリージョナルチェーンを目指して

## ● 店舗展開とカバーエリア

200店舗という数字そのものは目的ではなく、お客様の暮らしそのものを守り育むというチェーンストアの使命を果たすために必要な数ということです。フォーマットは売場面積が500～800坪のスーパー・スーパーマーケットです。出店は「一定の地域に、当社の店の商圈が互いに隣接するように集中出店する」ドミナントエリア形成を中心に進めます。

今後は、周辺地域への物流網の整備とドミナントエリアの形成を進めながら、複数の県にわたってより広域で展開していくことになります。



## 》ナルス上越インター店

ナルスでは最初のニューコンセプト・パートⅡの店舗として9月に開店しました。店内にお入りいただいて最初に目に入る青果コーナーでは季節感とカラーコントロールを意識してお客様にアピールしています。また、銘店コーナーには地域で欠かせない老舗のコーナーを設置したり、特産品も豊富に品揃えています。



## 》原信村上インター店

新潟県村上市で2店舗目として10月にオープンしました。ニューコンセプト・パートⅡの商品を品揃えする一方で、「村上牛コーナー」や地元岩船・山北の生魚など、多くの地元商品を豊富に取りそろえています。



## 》原信岩上店

ニューコンセプト・パートⅡに基づき6月に改装しました。競合店の多いエリアにあって、従来より広い範囲のお客様にも来店いただいております。新しい提案が受け入れられています。



# 主要財務データ

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

|                | 前連結会計年度<br>2010年3月31日 | 当連結会計年度<br>2011年3月31日 |
|----------------|-----------------------|-----------------------|
| <b>資産の部</b>    |                       |                       |
| 流動資産           | 12,009                | 14,149                |
| 固定資産           | 39,129                | 39,975                |
| 有形固定資産         | 27,373                | 29,079                |
| 無形固定資産         | 2,197                 | 1,746                 |
| 投資その他の資産       | 9,558                 | 9,149                 |
| <b>資産合計</b>    | <b>51,138</b>         | <b>54,125</b>         |
| <b>負債の部</b>    |                       |                       |
| 流動負債           | 15,836                | 17,826                |
| 固定負債           | 12,436                | 13,361                |
| <b>負債合計</b>    | <b>28,272</b>         | <b>31,188</b>         |
| <b>純資産の部</b>   |                       |                       |
| 株主資本           | 22,547                | 22,692                |
| 資本金            | 3,159                 | 3,159                 |
| 資本剰余金          | 6,405                 | 6,405                 |
| 利益剰余金          | 12,993                | 13,620                |
| 自己株式           | △10                   | △494                  |
| その他の包括利益累計額    | 318                   | 245                   |
| <b>純資産合計</b>   | <b>22,866</b>         | <b>22,937</b>         |
| <b>負債純資産合計</b> | <b>51,138</b>         | <b>54,125</b>         |

## 流動資産・固定資産

流動資産は、前期に比べ21億40百万円増加しました。これは主に、営業活動によるキャッシュ・フローの増加により、現金及び預金が増加したことによるものです。

固定資産は、前期に比べ8億46百万円増加しました。これは主に、新規出店に係る設備投資及び「資産除去債務に係る会計基準等」の適用による資産除去費用の資産計上によるものです。

## 流動負債・固定負債

流動負債は、前期に比べ19億90百万円増加しました。これは主に、仕入高の増加に伴う買掛金の増加と短期有利子負債の増加によるものです。

固定負債は、前期に比べ9億25百万円増加しました。これは主に、「資産除去債務に係る会計基準等」の適用による資産除去債務の増加によるものです。

## 売上高・売上総利益

売上高は、前期に比べ52億90百万円増加し、過去最高額になりました。これは主に、新規出店による増加と既存店売上が堅調に推移したことによるものです。

売上総利益は、前期に比べ16億39百万円増加しました。また、売上総利益率は、前期に比べ0.1ポイント増加し26.9%になりました。これは主に、販売管理の新たな取組みと精度向上によるものです。

## 営業利益・経常利益

営業利益は前期に比べ5億28百万円、経常利益は前期に比べ6億40百万円それぞれ増加しました。これは主に、売上総利益の増加と経費削減に関する取組みによるものです。これにより、総資本経常利益率(ROA)は7.2%となり、前期に比べ1.1ポイント改善しました。また、営業利益、経常利益は過去最高額になりました。

## 当期純利益

当期純利益は、前期に比べ77百万円減少しました。これは主に、「資産除去債務に係る会計基準等」の適用により、特別損失に13億61百万円計上したことによるものです。この結果、1株当たりの当期純利益は、前期に比べ4円2銭減少し、75円17銭になりました。

## 純資産

純資産は、前期に比べ71百万円増加しました。当期純利益の計上による増加の一方、配当金の支払いと、株主還元の観点から自己株式を4億83百万円取得したことによる減少で、増加額は少なくなりました。この結果、1株当たり純資産は、前期に比べ33円1銭増加し1,303円18銭になりました。



## 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

|                    | 前連結会計年度<br>2009年4月 1日から<br>2010年3月31日まで | 当連結会計年度<br>2010年4月 1日から<br>2011年3月31日まで |
|--------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------|
| ● 売上高              | 118,070                                 | 123,360                                 |
| 売上原価               | 86,480                                  | 90,131                                  |
| ● 売上総利益            | 31,590                                  | 33,229                                  |
| 販売費及び一般管理費         | 28,294                                  | 29,404                                  |
| ● 営業利益             | 3,295                                   | 3,824                                   |
| 営業外収益              | 177                                     | 260                                     |
| 営業外費用              | 306                                     | 277                                     |
| ● 経常利益             | 3,166                                   | 3,807                                   |
| 特別利益               | 11                                      | —                                       |
| 特別損失               | 323                                     | 1,425                                   |
| 税金等調整前当期純利益        | 2,855                                   | 2,381                                   |
| 法人税住民税及び事業税        | 1,524                                   | 1,799                                   |
| 法人税等調整額            | △ 93                                    | △ 767                                   |
| 少数株主損益調整前<br>当期純利益 | 1,425                                   | 1,349                                   |
| 少数株主利益             | —                                       | 1                                       |
| ● 当期純利益            | 1,425                                   | 1,347                                   |

## 連結包括利益計算書

(単位:百万円)

|                    | 前連結会計年度<br>2009年4月 1日から<br>2010年3月31日まで | 当連結会計年度<br>2010年4月 1日から<br>2011年3月31日まで |
|--------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------|
| 少数株主損益調整前<br>当期純利益 | 1,425                                   | 1,349                                   |
| その他の包括利益           |                                         |                                         |
| その他有価証券<br>評価差額金   | 92                                      | △ 73                                    |
| その他の包括利益合計         | 92                                      | △ 73                                    |
| ● 包括利益             | 1,517                                   | 1,276                                   |
| (内訳)               |                                         |                                         |
| 親会社株主に係る包括利益       | 1,517                                   | 1,274                                   |
| 少数株主に係る包括利益        | —                                       | 1                                       |

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

|                             | 前連結会計年度<br>2009年4月 1日から<br>2010年3月31日まで | 当連結会計年度<br>2010年4月 1日から<br>2011年3月31日まで |
|-----------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------|
| ● 営業活動によるキャッシュ・フロー          | 4,598                                   | 5,616                                   |
| ● 投資活動によるキャッシュ・フロー          | △ 1,318                                 | △ 2,429                                 |
| ● 財務活動によるキャッシュ・フロー          | △ 4,197                                 | △ 1,607                                 |
| 現金及び現金同等物の増減額               | △ 917                                   | 1,579                                   |
| 現金及び現金同等物期首残高               | 5,526                                   | 4,609                                   |
| 連結範囲の変更に伴う現金<br>及び現金同等物の増減額 | —                                       | 38                                      |
| 現金及び現金同等物期末残高               | 4,609                                   | 6,227                                   |

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

得られた資金は、経常利益の増加により、前期に比べ10億17百万円増加しました。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

使用した資金は、当期及び次期以降の新規出店に係る設備投資等により、前期に比べ11億10百万円増加しました。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

使用した資金は、余剰資金の圧縮による有利子負債削減の取組みが一段落したことにより、前期に比べ25億90百万円減少しました。

## セグメント情報(要旨)

(単位:百万円)

|                       | スーパーマーケット | その他   | 計       |
|-----------------------|-----------|-------|---------|
| ● 売上高                 |           |       |         |
| 外部顧客への売上高             | 122,980   | 380   | 123,360 |
| セグメント間の<br>内部売上高又は振替高 | 54        | 2,165 | 2,219   |
| ● 計                   | 123,034   | 2,546 | 125,580 |
| ● セグメント利益             | 3,792     | 170   | 3,962   |
| セグメント資産               | 51,511    | 3,613 | 55,125  |
| セグメント負債               | 31,409    | 681   | 32,090  |

### 売上高・営業利益

スーパーマーケットの売上高は、前期に比べ52億25百万円増加し、1,230億34百万円になりました。営業利益は、前期に比べ4億22百万円増加し、37億92百万円になりました。この結果、増収増益を確保することができました。

# 会社データ

## ● 会社の概要

商 号 原信ナルスホールディングス株式会社  
設 立 1967 年 (昭和 42 年) 8 月  
所 在 地 新潟県長岡市中興野 18 番地 2  
Tel: 0258-66-6711 Fax: 0258-66-6727  
資 本 金 31 億 5,971 万 2,610 円  
上 場 取 引 所 東京証券取引所市場第 1 部  
証 券 コ ー ド 8255  
従業員数 (連結) 1,412 人

## ● 主要取引銀行

株式会社第四銀行  
株式会社北越銀行  
株式会社大光銀行  
株式会社八十二銀行  
株式会社三井住友銀行  
株式会社商工組合中央金庫

## ● 会計監査人

有限責任監査法人トーマツ

## ● 株式売買単位

100 株

## ● 株主メモ

|         |                                          |                                       |                                                                                             |
|---------|------------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業年度    | 4月1日から3月31日まで                            | (お問合せ先)<br>(郵便物送付先)                   | 〒137-8081                                                                                   |
| 定時株主総会  | 毎年6月                                     |                                       | 東京都江東区東砂七丁目10番11号                                                                           |
| 期末配当基準日 | 3月31日                                    |                                       | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部                                                                         |
| 中間配当基準日 | 9月30日                                    |                                       | 電話 0120-232-711(フリーダイヤル)                                                                    |
| 株主優待制度  | 有(年2回)                                   | (住所変更、単元未満<br>株式の買取・買増等<br>のお申出先について) | 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。 |
| 株主名簿管理人 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社       |                                       |                                                                                             |
| 同事務取扱場所 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 | 単元株式数                                 | 100株                                                                                        |
|         |                                          | 公告掲載方法                                | 電子広告(ホームページアドレス <a href="http://www.hnhd.co.jp/">http://www.hnhd.co.jp/</a> )               |

## ● 事業の内容

当社グループは、スーパーマーケットの経営を主な事業としております。

## ● 取締役、執行役員および監査役

代表取締役会長 山崎 軍 太 郎  
代表取締役社長 原 和 彦  
取締役副社長・執行役員 五十嵐 安 夫 (人事・組織・環境統括)  
常務取締役・執行役員 小 出 朗 (商品統括)  
常務取締役・執行役員 山 岸 豊 後 (経営企画統括)  
取締役・執行役員 森 山 仁 (店舗運営統括)  
執行役員 関 英 明 (店舗開発統括)  
執行役員 丸 山 三 行 (業務システム統括)  
執行役員 吉 田 浩 和 (財務経理部長)  
執行役員 早 川 仁 (営業企画統括)  
執行役員 松 田 易 伸 (物流統括)  
常勤監査役 高 橋 宏 一 (社外監査役)  
常勤監査役 増 田 和 弘  
監 査 役 金 子 健 三 (社外監査役)  
監 査 役 細 貝 巖 (社外監査役・独立役員)

## ●株式の状況

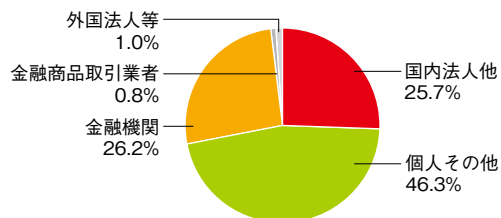
|          |              |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 38,000,000 株 |
| 発行済株式総数  | 18,014,239 株 |
| 期末自己株式数  | 413,293 株    |
| 株主数      | 7,264 名      |

## ●大株主(上位10名)

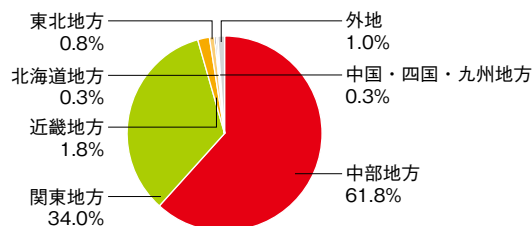
| 株主名               | 株式数(千株) | 持株比率(%) |
|-------------------|---------|---------|
| 原 和彦              | 1,248   | 7.0     |
| 原 信博              | 842     | 4.7     |
| (株)第四銀行           | 835     | 4.7     |
| 原信ナルスグループ従業員持株会   | 680     | 3.8     |
| (株)商工組合中央金庫       | 540     | 3.0     |
| (株)三井住友銀行         | 398     | 2.2     |
| あいおいニッセイ同和損害保険(株) | 368     | 2.0     |
| 原 正樹              | 368     | 2.0     |
| 原 セツ              | 320     | 1.8     |
| ホクト(株)            | 302     | 1.7     |
| 合計                | 5,905   | 33.5    |

(注) 1: 上記の他、当社所有の自己株式413千株(2.2%)があります。  
2: 持株比率は、自己株式を控除して算出しております。

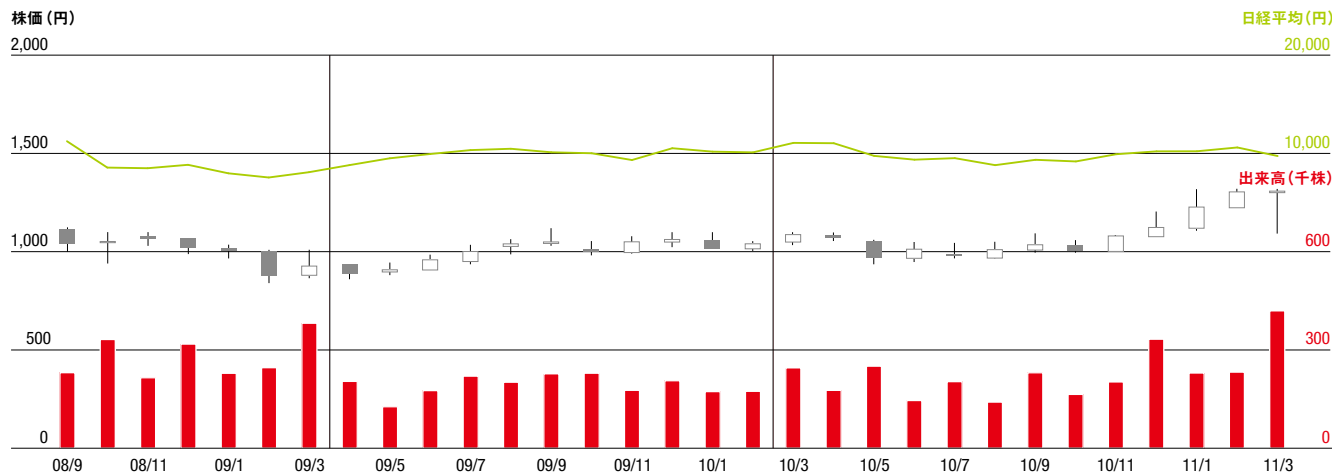
## ●所有者別株式の分布状況



## ●地域別株式の分布状況



## ●株価チャート





Harashin Narus  
Holdings

## 原信ナルス ホールディングス株式会社

新潟県長岡市中興野18番地2 〒954-0193

Tel.(0258)66-6711 Fax.(0258)66-6727

<http://www.hnhd.co.jp/>

ir@hnhd.co.jp

### ●株主優待制度

毎年3月31日および9月30日現在の株主名簿に記載または記録された、100株以上を保有される株主の皆様に対して、下記の贈呈基準をもとに、株主優待券(以下「お買い物割引券」と表記します)あるいは株主優待品の中から一点をご選択いただき贈呈いたします。

#### 1. 株主優待制度の内容

- ① 贈 呈 内 容 お買い物割引券または株主優待品のいずれかをお選びいただけます。  
各々の贈呈基準は「2. 株主優待制度の贈呈基準」を参照下さい。  
(お買い物割引券と優待品の両方を選択することはできません)
- ② 対 象 者 100株以上の株主
- ③ 贈 呈 基 準 3月31日および9月30日現在の株主を対象に年2回実施
- ④ 贈 呈 方 法 対象者に案内書を送付し、案内書に添付された申込書に必要事項をご記入の上ご返送いただき、申込書と引き換えに商品等を贈呈いたします。

#### 2. 株主優待制度の贈呈基準

##### (1) お買い物割引券 (額面100円)

- ① 贈 呈 基 準
 

|          |          |      |          |          |      |
|----------|----------|------|----------|----------|------|
| 100株以上   | 500株未満   | 15枚  | 3,000株以上 | 4,000株未満 | 150枚 |
| 500株以上   | 1,000株未満 | 30枚  | 4,000株以上 | 5,000株未満 | 200枚 |
| 1,000株以上 | 2,000株未満 | 50枚  | 5,000株以上 |          | 250枚 |
| 2,000株以上 | 3,000株未満 | 100枚 |          |          |      |
- ② 使 用 方 法 一回のお買上金額1,000円以上につき、1,000円ごとに1枚(割引額100円)利用可能
- ③ 使用できる店舗および対象商品 原信、ナルスの直営売場における全商品(ただし専売品・商品券・その他指定商品は除く)
- ④ 有 効 期 限 3月31日現在の株主へのお買い物割引券は、配布日から翌年1月31日まで  
9月30日現在の株主へのお買い物割引券は、配布日から翌年7月31日まで

##### (2) 株主優待品の贈呈基準

- |         |          |          |                                                                                                                                  |
|---------|----------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 贈 呈 基 準 | 100株以上   | 500株未満   | 以下の2品より1品お選びいただけます。<br>クオカード 1,000円分・東日本大震災義援金 1,000円分*                                                                          |
|         | 500株以上   | 1,000株未満 | 以下の2品より1品お選びいただけます。<br>新潟県産コシヒカリ(米) 5kg・東日本大震災義援金 2,000円分*                                                                       |
|         | 1,000株以上 |          | 以下の5品より1品お選びいただけます。<br>新潟県産コシヒカリ(米) 10kg・東日本大震災義援金 4,000円分*<br>岩塚製菓 米菓詰め合わせ 3箱1セット・亀田製菓 米菓詰め合わせ 3箱1セット<br>ボンオーハシ 洋菓子詰め合わせ 2箱1セット |

※ 東日本大震災の被災地・被災された方へ日本赤十字社を通じて寄付をさせていただきます。



東日本大震災  
義援金

※ 東日本大震災義援金  
東日本大震災の被災地・被災された方へ日本  
赤十字社を通じて寄付をさせていただきます。